

甲州市塩山下小田原上条が  
正式に重要伝統的建造物群保存地区になりました

上条  
報告

第75号  
平成27年8月

甲州市教育委員会  
☎32-5076

甲州市塩山下小田原上条  
重要伝統的建造物群保存地区の誕生

第二回上条見学会開催

この度、甲州市塩山下小田原上条が重要伝統的建造物群保存地区として選定された旨の告示が文部科学省より出されました。これをもちまして正式に重要伝統的建造物群保存地区 選定となりました。

今後甲州市では、この保存地区の伝統的な山村景観を維持し、さらに向上させ、良好な状態で後世へ引き継ぐべく各種整備事業やその他活動を計画してまいります。皆様のご理解・協力をよろしくお願いいたします。

また、文化財課では重要伝統的建造物群保存地区の上条を多くの方に知っていただくため、定期的に見学会を開催してまいります。第二回上条見学会は七月二十六日(日)に開催しました。今回の見学会は、「パンフレットのメインに使用した写真の撮影ポイントへ実際に行ってみよう!」とのことで企画しました。天候にも恵まれ、参加者の皆様も満足して帰られた様子でした。今後は二ヶ月に一回ほどのペースで見学会を開催する予定です。色々な側面をもつ上条を多くの皆様に紹介していきたいと思っております。

平成二十七年七月八日付けの官報(左赤線枠内)に告示が掲載されました。これで正式に全国一〇地区目の重要伝統的建造物群保存地区が誕生しました。今後、保存地区内の山村景観を維持し、また向上させていくための事業を行ってまいります。

公共事業では案内看板類や防災設備などの環境整備を順次行う計画です。また、個人による現状変更(現状からその形状を変更しようとする一部の行為)に関して規制がかかります。規制のかかる行為に関しては国や県、市から補助金が出る一方、規制のない行為に関して補助金はありませんが、その形状など自由に改変することが可能です。「これを今度こんな風にしたと思うが、補助金が出るの?」など、不明点は文化財課へお気軽にお問合せください。「誇りをもって住み続けることのできる重伝建」が目標です。ご意見・ご要望についてお聞かせいただければ幸いです。

また、甲州市では「甲州市伝統的建造物群保存地区保存審議会」を平成二十六年から組織し、保存地区の保存に関する各種事案の審議を行っています。保存審議会は学識経験者や地区代表者で組織し、上条からは組長を含め3名に委員として参加いただいています。次回は八月二十四日に開催されます。審議会の内容につきましては来月号にてご報告いたします。

七月二十六日(日)に第二回上条見学会を開催しました。第一回目の見学会は、重伝建選定の答申が出た直後の五月二十三日(土)に開催しました。このときは、福蔵院から金井加里神社、六地藏、観音堂を見て集落を一周する通常の見学ルートをご案内しました。

第二回目の今回は、見方を変えて「この景色を見に行こう!」ということで、パンフレットのトップに使っている左の写真(写真1)の撮影ポイントまで山登りをしました。

当日は参加者七名と職員四名の総勢十一名で、午前8時に福蔵院をスタートし、山を登り、下つてくるとちょうど昼の十二時で、情報館で昼食をとりました。



写真1 パンフレットのトップに使用した写真  
(昨年秋頃撮影)

組長様に観音堂を開けてもらい、木食白道と木造百観音像について解説した後、順次六地藏、金井加里神社をみながら下り、福蔵院にて午後三時頃解散となりました。天候にも恵まれ、素晴らしい景色を楽しむことができました。

○文部科学省告示第百二十一号  
文化財保護法(昭和二十五年法律第二百四十四号)第百四十四条第一項の規定により、次の表に掲げる伝統的建造物群保存地区を重要伝統的建造物群保存地区として選定したので、同条第二項の規定に基づき告示する。  
平成二十七年七月八日

名	所在地	区	城	面積
甲州市塩山下小田原上条伝統的建造物群保存地区	山梨県甲州市	甲州市塩山下小田原字高地京、片瀬及び日照久保の全域並びに上条、鍛冶屋向及び金剛銭の各一部		約一五・一ヘクタール
		備考 区域に関する図面を、山梨県教育委員会並びに甲州市の教育委員会及び関係部局に備え置いて縦覧に供する。		

文部科学大臣 下村 博文

【絶景を楽しむに登り始めの難所を乗り切る】

上条の東側にある山を写真2のように尾根を伝うように登りました。

登り始めは急斜面をひたすら一時間登りました(写真3)。



写真2 登った山(上条の東側の山)



写真3 登り始めの尾根

クタクタですが、木々の間からこんな景色が見えたのです(写真4)。一時間登ったご褒美です。これも十分に素晴らしい景色でしたがパンフレットの写真より低い位置でした。ここで休憩したあと、また登ります。



写真4 最初の景色

【ひたすら登る】

とところどころ緩い勾配の道もあり、参加者同士会話を楽しみながらさらに登っていききました。

【ついに…】

登りはじめから二時間が経ったころ、ついに到着しました(写真5)。パンフレットの写真撮影時は秋で、木々の紅葉が美しく写っていました。今回は山の緑



写真5 パンフレットの撮影ポイントで今回撮った写真

ここでは心地よい風が吹き、猛暑の地上とは別世界にいらるようでした。

参加者からは、「登るのは大変だったけどこの景色が見られるならまた登りたい」「ここにハンモックを吊るしてお昼寝したら気持ちよさそう」との声がありました。

また、ここから集落を見下ろすと観音堂を馬蹄状に囲むように家々が建っているのがよくわかり、またまりのある素晴らしい集落であると改めて実感しました。

今度は秋の澄み渡る青い空と紅葉の景色を見に来たい。春のモモの花の時期にも見に来たい。

一年に何度も登りたくなる山、何度も見に来なくなる素晴らしい景色を守っていきましょう。



写真6 集合写真

【頑張ったご褒美に富士山】  
この日は運よく富士山も顔を出してくれました。頭だけでは富士山が見える景色はまた格別です。きっと誰かの日頃の行いが良かったのでしょうか。

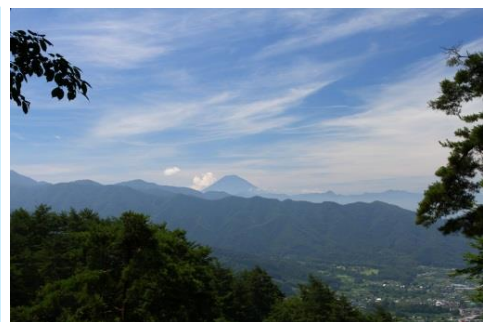


写真7 富士山!



写真8 上条と富士山の競演

木造百観音像が水墨画に!

水墨画で描かれた木造百観音像。細かいところまで良く描かれていますね。作者は韮崎在住の女性。趣味で通う絵画教室で三年前に上条を訪れた、とのこと。その時の作品がこの水墨画。現地では写真を撮り、軽くスケッチをとるだけ。後日自宅で水墨画を書き上げた、とのこと。なんと所要時間は一時間程度。下書きはしないんだそうです。

この度、この水墨画を寄贈していただきました。差し当たり情報館に置かせていただいています。情報館へお寄りの際は是非ご覧になってみてください。



木造百観音像の水墨画